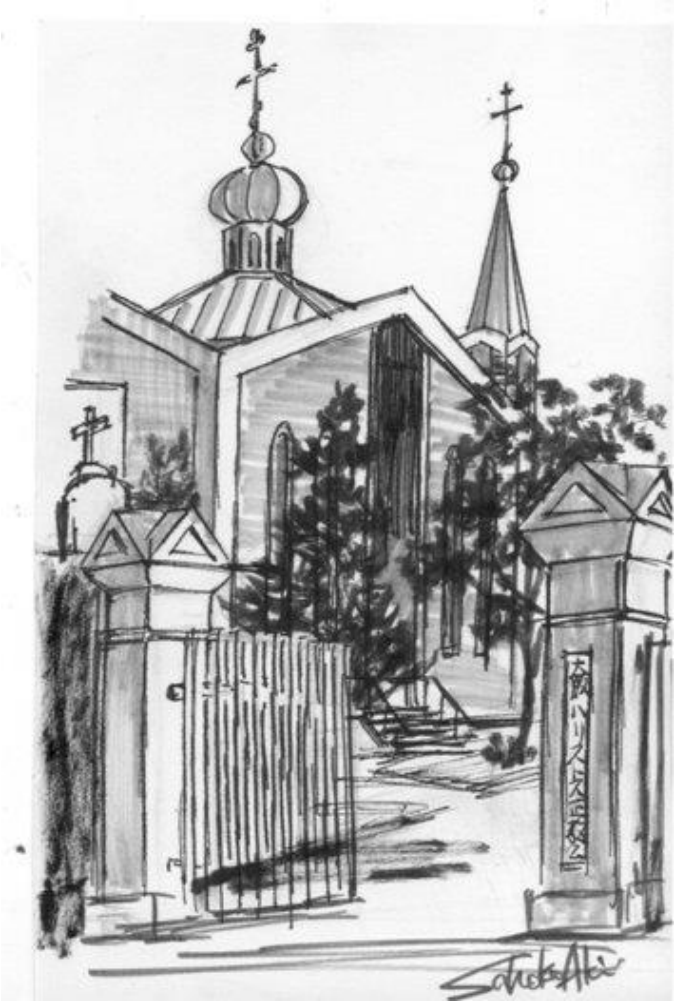
身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

NPO 法人すいた市民環境会議　　２００９年１０月　第６５号

吹田の郷

発行/NPO 法人すいた市民環境会議　会長/小田忠文　ホームページhttp://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm　設立/1997 年 3 月 15 日
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町 3 丁目 8-28-106　中村小夜子　TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491　編集/会報委員会
年会費/正会員（個人･団体）1,000 円、正会員（法人）10,000 円、購読会員 1,000 円、賛助会員 10,000 円　郵便振込口座番号/00980-3-28845



目　次

1.表紙

2.会長コラム　表紙の絵

3.「あルック吹田」改訂に向けて

4.吹田の古木･大木冊子その後
　大木が生き続ける厳しさ

5.みどりのカーテン観察日記（2）

6.神崎川の再生に向けて

7.　同　上

8.吹田市の自然物語
　企画･運営に参加して

9.　同　上

10.吹田市の自然物語
　展示「大木に願いを」

11.吹田市の自然物語
　シンポジウム「森の木と街の木」

12.お知らせ

コラム

春夏秋冬

会長　小田忠文

今まで何度か「この選挙で世の中が変わる」と言われつつも結局何も変わらなかった。今私たちは未来に対する不安をもっている。まず、医療の崩壊からくる出産や病気への不安、子育ての不安、子どもの教育の不安、老後の生活への不安、介護は…。これらはみな、この 10 年ほどの間の国の政策に大きく左右されてきた。「結局何も変わらなかった」とは言ったものの実は変わっていたのだった。▲しかし今年８月末の総選挙後、政治が変わろうとしている。来年４月からの新年度には新政権による施策の影響が地方の吹田にいても感じられるようになるのだろう。こんにちの社会では、私たちの人生で誰もが通過する誕生、教育、医療、ごみ処理、埋葬などのほとんどを行政サービスに頼っている。これに加えて昨今は育児、介護、さらに介護予防も行政サービスに頼るようになってきた。そしてそれらのサービスがうまく受けられなかったとき、私たちはクレームや訴訟という方法しかとれない体質になってきている。これが健全な社会だろうか。▲一方、私たちの中には行政に頼らず、あるいは協働して自分たちでできることは自分たちでやろうと、同志が集まって団体を作り、何らかの活動をしているグループも増えてきた。それらのグループの対象とするものは環境問題であり、福祉であり、教育であったり、さまざまなまちづくりにからむ事柄に及んでいる。▲私たちすいた市民環境会議は発足して 12 年、「市内の身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する」という理念を掲げて活動してきた。その理念のもと、吹田を知る目的で科学的調査や散策、それに基づく冊子の発行などをおこない、京都議定書の約束を守るために市民が日常生活で実行しやすい多くの手法を講座や講演、書物で発表してきた。▲ここにきて新政権は「温室効果ガスの排出量を 2020 年までに 1990 年比 25%削減を目指す」と表明した。2020 年とはまだ 10 年先の話だが、一方 97 年 12 月の気候変動枠組条約第 3 回締約国会議（COP3、京都会議）で採択された京都議定書では「2008～2012 年の間に日本は 1990 年比 6%削減」を約束している。2012 年とは３年後なので待ったなしである。しかも 6%削減とは実質 15%以上の削減を意味するようだ。この課題を行政や事業者のみで達成することは不可能なことも試算されている。つまり私たち市民がライフスタイルをかえつつ、日々の生活で低炭素社会を作っていく義務も課せられているのだ。▲地方分権の形がどのようになるのかまだ不透明だが、分権化されたことを想定した地方行政の仕組みはできているのだろうか。国からのひも付き補助金（用途指定で交付されるお金）がなくなっても市役所内部の部署間での縄張り＝縦割り行政がなくなるのだろうかと不安に思う。「協働」という言葉もようやく市役所職員の身についてきたように感じるが、まだまだ不十分に思える。ここ数年はギクシャクするだろうが 10 年後には「縦割り行政」という言葉が死語になっていてほしいものだ。▲健全な社会をつくるためには、このように行政もチェンジが求められるが戦後 60 余年、「行政サービスとは受けるだけのもの」と慣らされてきた国民もその態度、考え方をチェンジしなければならない時代に入ってきたことを痛感している。

＜表紙の絵＞

大阪ハリストス正教会

阪急豊津駅の北東 400 メートル、山手町１丁目の空にそびえる尖塔と玉葱（たまねぎ）形の塔は、「大阪ハリストス正教会」です。「ハリストス」とはギリシャ語でキリストのことです。正教会は、英語で「オーソドックス・チャーチ」といい、ギリシャ正教会、ロシア正教会などの流れをくむ教会です。

大阪ハリストス正教会は明治 43(1910)年に大阪天満橋に木造の聖堂が建立され、戦災で消失し、昭和 32(1962)年、ここに再建されました。内部には松山のロシア人捕虜収容所の復活聖堂にあった素晴らしいイコノスタス（聖堂内部を仕切るイコンの壁）があります。

この教会は吹田風物 100 選に選定されています。

（表紙の絵：安芸早穂子　文：岡村昇二）

【まちなみ探検隊報告　第３報】

吹田市観光マップ『あルック吹田』改訂に向けて

まちなみ委員会　松岡要三

会報第 62 号（09 年 4 月）で紹介しましたように、今年 2 月にまちなみ探検隊を発足させ、まちなみ委員会が発足しての 10 年を振返りながら、再度市内を隈なく歩き、多様な視点から吹田市内の現状を観察し 2010 年には新しい「あルック吹田」を市民の皆様にお届けるよう取組んでいます。

第 63 号（09 年 6 月）でもその活動の経過を紹介しています。本号では、その後の経過を紹介するとともに、10 年間を振返り吹田市の主な変化と、新しい「あルック吹田」の構想をご紹介します。

１．10 年を振返って

2001 年 4 月「あルック吹田」が完成した時、会長のメーセージ～観光マップ「あルック吹田」をお届けします～を添付して配布しました。それには、以下のように記しています。

……

すいた市民環境会議は設立当初から遠くの地に出かけて憩う場を求めるより、自分の住む吹田で憩えるようにしたい、新しく住人になった人にもっと吹田を知って好きになってほしい、との想いがありました。そんな想いを込めて「観光マップ」を作りました。

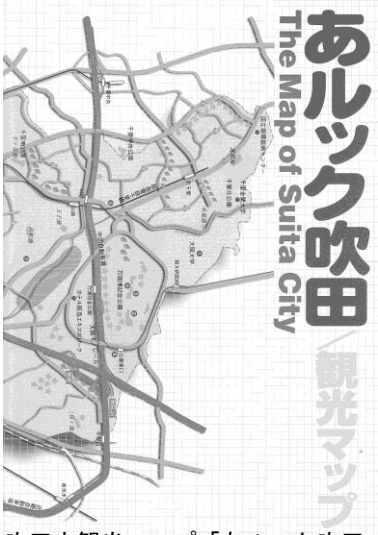
観光マップを手にして、歩いて、吹田市のあるがままを確認し、よりよいまちづくりを考える道具にしていただきますと私たちの役目は 120%達成できることになります。

……

マップ完成後、「あルック吹田散策会」「文化施設探訪」「街角アート探訪」「万博公園探訪」など、当初の想いを大切して活動してきました。

こんな中から「ぶらっと吹田」や「吹田まち案内人」が誕生し、この 9 月末には JR 吹田駅前のさんくす 3 番館 2 階に観光センターが開設されました。10 年前を振返ると、「市民の市内散策が非常に盛んになったなあ。」と感じる次第です。

一方、吹田市内もかなり変貌しました。万博からエキスポタワー、万博ホール、美術館、エキスポランドが消え、千里丘では毎日放送や企業社宅がマンションになり、千里ニュータウンも建替えが進んでいます。浜屋敷、旧西尾家住宅、旧中西家住宅は市民の憩いの場・活動の場になっています。千二小学校の木造校舎は図書館に生まれ変わりました。隠し砦のようだった吹田市立博物館にも多くの市民が集まるようになりました。神崎川畔は大阪市内からの玄関口として企業市民が再生に取組んでいます。この 10 年、残念なケースもありましたが、市民の想いがまちづくりに生かされていると感じます。



吹田市観光マップ「あルック吹田」

２．「あルック吹田」改訂に向けて

まちの変化に対応して、1～2 年毎に「あルック吹田」を改訂してきましたが、来年は 10 年目の節目の年に当たります。それで改訂内容について吹田市産業にぎわい創造室とも検討し、下記の方向で改訂することになりました。

①「千里丘コース」を廃止し、「春日・緑地公園コース」、「神崎川コース」を追加、全 13 コースとする。

②吹田市の特色である「万博公園のあるまち」、「大学のあるまち」をよりアピールするため、万博公園、大学の紹介ページなどを増やし、全 40 頁にする。（当初 32 頁、2009 年改訂 36 頁）

この 9 月からは、探検隊を改訂プロジェクトに改称し、改訂への作業を加速させ、コースの実証散策会、企画編集会議を開催し、12 月末に改訂原案作成を目指し取組んでいます。

３．「あルック吹田」用「私の一枚」を募集

現在約 150 枚の写真が使われています。写真の入れ替えも計画しています。皆様からの写真提供も期待しています。またご意見、提案も歓迎します。（期限：10 月末日）

サイズ：L 版または電子データ約 100KB jpg
宛先：すいた市民環境会議 松岡要三
住所：565-0851 吹田市千里山西 4-39-C608
E メール：matsuokayh3@sutv.zaq.ne.jp

吹田の古木・大木冊子その後

大木が生き続ける厳しさ

生きもの委員会　平（ひら）軍二

１．伐られた木・枯れた木

大木冊子では調査からわかったこととして、伐られた木・枯れた木についてまとめ報告しています。

・97 年報告の木で 07 年調査時に無かった木

・07 年調査時にあったのに、その後に切られた木

07 年調査から 09 年 3 月までのこの 2 年間で、20 本の木が伐採されていることがわかり、大木一覧表に×印で表示しました。

その後も何本か伐られていて、大木が生き続けることが如何に難しいかを報告します。

２．山田東２、紫雲寺本堂前民家

クスノキ（No862、276 ㎝）が 09 年夏消えていました。紫雲寺の庭からよく観察できる木でしたが、なぜ伐られたか、紫雲寺が改築されたことと関係あるかどうかなど、その理由は確認していません。

山田東民家　09年8月

山田東民家　95年11月

３．千里ニュータウン内緑地の大木受難

①高野台４丁目の高野台中学校グランド北側傾斜地にあった木は、すべて伐られていました。内大木はコナラ(No431、243 ㎝)、アベマキ(No438、247cm)の２本で、今年の 7～8 月に伐られたと思われるが、理由はわかっていません。

②津雲台３丁目、津雲公園近くの住宅内の傾斜地にあった吹田で最も大きいアカマツ（No540、256cm）は、団地の一斉建替えのため更地にされ、大木のみならず、傾斜地の緑がすべて無くなりました。

09年8月

07年5月

③幹線道路と住宅地内道路の緩衝地帯となっている、津雲台３千里けやき通り西側沿いの緑地にあったシナサワグルミ(No536、222cm)も伐られました。木のすぐ横にマンホールがあるので、この配管に対し影響が出たためと思われます。

４．山田西３、山田上墓地のコナラ

墓地内でコナラ（No849、208 ㎝）が枯れ、葉が落ちていました。今夏枯れたばかりですが、生き返るのは難しいと思われます。

この結果、伐採または立ち枯れにより大木 928 本のうち 26 本が無くなったことになります。

５．生き残っているものの懸念される木

現時点まだ生き残っているものの、枯れることが懸念される木もあります。

①岸部北４の吉志部神社本殿焼失時に延焼したシイノキ 2 本（No125、282cm，No126、263cm）

②山田西１丁目高台にある山田小川・下共同墓地の幹が 5m 高で切断されたアラカシ（No843、223cm）

このように「大木が生き続ける難しさ」がわかったので、大木を子々孫々に残す、即ち吹田市に 100 年･200 年の大木を育てるためのルール作りを始める必要があると考えます。

東山田地区公民館

みどりのカーテン観察日記（2）

生活環境委員会 ･･･NEWS

東山田地区公民館の西側外壁に、４ｍの高さに伸びるよう設置されたみどりのカーテン、今年はどんな調子だったでしょうか？公民館の事務担当神村さんのフォト日記です。

7月4日(土)
ゴーヤ2号順調に成長中。甘い花の香に虫たちもたくさん寄ってきました。ハチ、アリ、てんとう虫など。

7月9日(木)
2号収穫。30cm近くまで成長しました！葉っぱが黄色くなってきたのが気になります。

7月11日(土)
ぐんぐん成長中。いろんな所にゴーヤがなっています。『ウォーリーを探せ』ならぬ「ゴーヤを探せ！」

7月15日(水)
全体的に元気がありません。毎日の暑さのせいでしょうか？
本日の収穫　9個

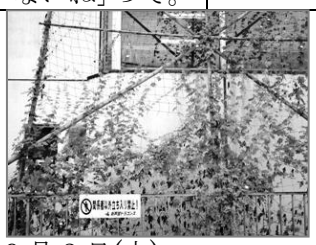
7月25日（土）
ゲリラ豪雨の後。今年はよく雨が降ります。さらに葉枯れ進行。

7月29日(水)
さらに黄色く。水やりを控えました。近所の方も心配してくださいます。
「今年は元気ないね」って。

7月30日（木）
元気がないので活性剤をあげました。
水のやりすぎ、雨が多かったための根腐れ、水をやったりやらなかったりしたため、弱ってしまったよう。 複数の人が水やりをしているので管理が難しいです。枯れた葉は切り落としました。復活しますように！！

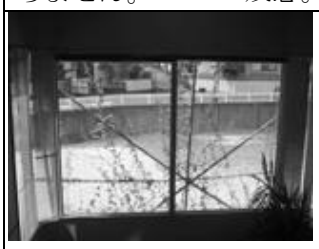
8月13日(木)
少し元気になってきました。花もちらほら咲いています。ゴーヤもなっていますが、初めのようには大きく育ちません。

8月30日(日)
復活しましたが、実るゴーヤはみな太短く、しかもかなり上の方でなったものは、もう収穫できません。残念。



9月3日(木)
また新しいつるが伸びてきました。9月に入り朝夕涼しい季節になりました。ゴーヤもそろそろ終わりでしょうか？

公民館裏側に植えた「朝顔の緑のカーテン」。地植えなので少しぐらい水をやり忘れても大丈夫(笑)。何より花が心を癒してくれます。



9月10日(木)
観察日記終了！
葉が密に茂らず、緑のカーテンにはなりませんでした。

まとめ

プランター植えだったので水の管理が難しかった。今年はあまり元気がなく、窓を影にしてくれるほどの高さには葉が茂らず残念だった。ゴーヤはおいしくいただいた。

意外にも、講座で余った朝顔の苗を公民館裏側に植えたら順調に育ち、カーテンというほどではないが目隠し程度にはなり、なにより毎日きれいな花を咲かせてくれているのがうれしかった。来年は朝顔？

▲昨年の様子。今年は残念！
（生活環境委員会）

神崎川の再生を目指して

神崎川畔企業連絡会
事務局長　橋本徹也

神崎川畔企業連絡会は神崎川の再生を目指して様々な活動をおこなっていますが、当連絡会が発足した経緯には3つの取組みがきっかけになっています。その経緯と当連絡会の取組みを紹介します。これを機会に、皆様も神崎川を歩いて見ませんか。また神崎川でおこなわれるイベントに参加してみませんか。

１．吹田まつり

私が吹田青年会議所に所属している時、吹田青年会議所では、吹田まつりについて色々な提案をしておりました。1994年、第25回吹田まつりのときに、天神まつりと同じ規模で行われていたと教えられた**高浜さんの船渡御**を復活させようと鉄船を造り高浜神社の神輿、泉殿宮の太鼓をお借りし､平成の船渡御としてパレードに参加しました。

1994年の船渡御

そしてこの思いを吹田まつり第30回大会でパレードではなく神崎川で実現できるよう運動することになりました。そんななか、平成7年あの阪神淡路大震災が起こり災害時の交通手段が議論されるようになりました。大阪府では神崎川空間利用構想検討委員会をつくり災害時の川の利用を考え、災害時には防災船着場として利用し、普段はゾーンごとにその見合ったまちづくり運動ができるようにと**神崎川ネオ・リバープラン**が策定されました。

1999年の花火大会

私たちの想いが吹田市から大阪府に伝わり、高浜橋付近は船渡御、花火大会ができるゾーン内の**防災船着場**と位置づけられました。

そして、高浜橋の近くに防災船着場が吹田まつり30回大会の年に出来上がり、吹田まつり第30回大会では私たちの思いどおり**花火大会**、高浜神社からの**陸渡御**、そして神崎川での**船渡御**を実現できました。現在、花火大会は明石の花火事故後取りやめになり、船渡御は参加者が楽しめる**ドラゴンボートレース**に形を変えて続けられています。

２．道路愛称づくり運動

吹田市西南部、江坂駅を中心に集まる企業で構成する**江坂企業協議会**があります。その中で私が環境整備委員会の委員長をしているときに「清掃活動だけでなく、道路に愛称をつけることにより道に愛着ができ、ごみを捨てる人が減る。又その愛称が新たな街づくり運動につながっていく」と考え、**道に愛称をつける運動**をすることになりました。それが江坂だけでなくオール吹田ですることになり、そして市制60周年事業にと拡がり、吹田市内の道路24路線に愛称がつきました。その中の1路線神崎川河川敷内道路に**水鳥の道**という愛称がつき、この愛称により新しいまちづくり運動がスタートすることになります。

３．江坂ビジョン21共創のまちづくり

江坂企業協議会が20周年を向かえまちづくりビジョンを策定しこれからのまちづくりの運動指針として発表いたしました。それを受け大阪府から神崎川のこれからの構想についての意見交換の申し込みがありました｡「今まさしく神崎川をテーマにまちづくりが行われようとしています。少し時間をください。」と大阪府に待ってもらい、神崎川沿いの企業に声をかけ集まっていただき準備会を開催いたしました。趣旨を説明し協議を行い、

「今まで、企業同士の横交流も無かったが、企業もまちづくり運動を行う時代だ。そして、企業だけでなく地域自治会に後援団体として加わっていただき我々の運動を伝え、協力いただける組織としよう。神崎川の企業も川を背に向けてきたが、これからは川に向かっていくようにしましょう。最近神崎川に魚も鳥も増えてきている。次は人が集まる神崎川にしていこう。」と全社一致で**神崎川畔企業連絡会**が発足いたしました。このように神崎川への色々な想いを引き継ぎ発足いたしました。

４．神崎川畔企業連絡会の活動

神崎川を何社か自社で清掃活動されているところもありましたが、**神崎川クリーンアップ作戦**と題し１年に１回全体（4ｋｍ）の清掃活動をすることにしました。300 名を超える人が集まり行っています。

神崎川クリーンアップ作戦

今年も 10 月 9 日朝８：00 より第７回神崎川クリーンアップ作戦をおこないます。

春には、多くの人に神崎川に集まってもらえるように**神崎川畔さくらまつり**を行っています。**榎木橋防災船着場**をメイン会場にし、歌、踊りなどをステージで行い、リバーサイドカフェで楽しんでいただけるようにしています。

そして、吹田市内神崎川畔 4ｋｍに各企業のブースを設け**スタンプウォーク**をしていただき、そこで各企業の景品がもらえたりゲームで楽しんだり、完歩できればさらにプレゼントがもらえる楽しみもあります。

神崎川畔さくらまつり、第１回は早すぎてサクラが咲かず、第２回は強風、第３回は途中から雨、第 4 回はサクラ満開、快晴。

今年、第５回は榎木橋メイン会場と高浜橋ロハス会場を設置し行いましたが、またしても途中から雨。毎年ドキドキしながら行っています。

神崎川畔さくらまつりのイベントの一例

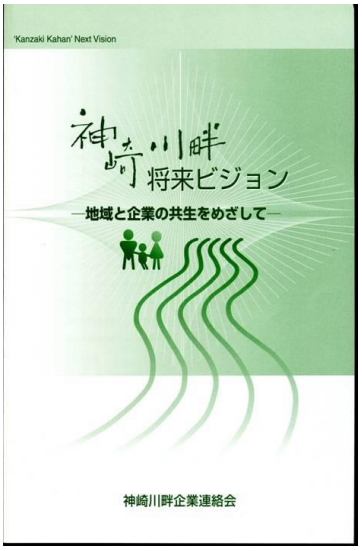
私たちのこの運動を強固にするため大阪府、吹田市との協定を結び**アドプト・リバー水鳥**としても認証していただきました。榎木橋西側には、**フラワーギャラリー榎木**を設け地域の方が花壇のお世話をしていただいております。

私たちは発足から５年の活動を終え、これからの神崎川の想いをワークショップで集約し、**神崎川将来ビジョン**を策定いたしました。このビジョンをもとに更に運動を広げていきたいと思います。

神崎川アドプト・リバーの表示板

５．オータムフェスタ 2009
～神崎川クルーズ＆ロハスイベント～

10 月 17 日(土)18 日(日)吹田市主催で開催されます。場所は神崎川右岸河川敷（高浜橋～吹田大橋付近）。会場に足を運んでみませんか。



吹田市立博物館特別展『吹田市の自然物語』
展示およびイベントの企画・運営に参画して

理事　高畠耕一郎

この夏、吹田博物館で初めて自然展が開催された。吹田博物館は歴史系博物館として運営されてきて、郷土の歴史や瓦（かわら）・土器の発掘と研究が中心でした。

しかし、小山修三館長が３年前に就任されてから、市民に開かれた博物館を目指して、「千里ニュータウン展」を多くの自発的な市民参画で実施し、始まって以来の入場者を記録しました。この時から、吹田博物館に市民が協力しながら展示や講座を創り上げていくスタイルが始まりました。

小山館長より、今年の夏１町５村のアーカイブ展第３期（７／１８～８／３０）に特別展「吹田の自然物語」を企画しているので協力してほしいと、吹田市内の環境団体や自然に関心のあるグループ・個人に要請がありました。それに応えて、２０数人が博物館に集まり、展示や講演会、イベントの企画や運営体制を話し合い、ほとんど全ての企画に環境団体や環境に関心のあるグループ・個人が参画してこの自然展を実現させました。

講演会が７回、シンポジウムが３回、体験学習９回、コンサートと演劇が２回、自然観察イベントが８回実施されました。

期間中、６６００名もの多くの市民や子どもの参加があり、例年の２倍近くの入場者になりました。また、この行事に参画した多くの環境団体が博物館と自然の係わりの重要性を経験しました。

セミの抜け殻調査マップ　発見場所へ種別にシールを貼る

多くの団体が、展示やイベントで参画しました。吹田自然観察会は、吹田のセミの抜け殻調査」を呼びかけ、展示室で「大きな吹田地図セミマップを設けて、市内で採取したセミの抜け殻を種別に分類し、クマゼミ（青）アブラゼミ(赤)ミンミンゼミ(緑)ツクツクボウシ（黄）の色シールをそのマップにどんどん貼っていきました。このため、子どもを連れた多くの家族が博物館にセミの抜け殻を持って来ました。結果として期間中にセミの抜け殻が1万個以上集まりました。

このセミの抜け殻調査では、博物館での催しと同時に、吹田の全小中学校の児童生徒に呼びかけるチラシが配布されました。その結果、新学期になって学校に持参している子ども達も多くいて、それらも現在博物館に集められています。これで、吹田のセミ分布がわかるだけでなく、樹木が生い茂っている環境が好きなアブラゼミと校庭や街路樹だけでも生育できるクマゼミの分布から、吹田の緑地環境の違いも見えてくる環境地図になります。

クイズラリーもありました

昭和３０年代の原風景を示す大地図

また、西山田自然教室のメンバーが、縦９ｍ、横３ｍで昭和３０年代の吹田の大地図を床に設置し、そこに当時の風景写真と現在の写真を置いていきました。自然の移り変わりが具体的によくわかりました。

この他、吹田地学会やＮＰＯ法人すいた環境学習協会（SELF）、みんなのまちづくり吹田塾、西山田ヒメボタルの会、吹田みどりの会、スイタクワイ保存会など、多くの自然を大切にする環境団体やグループの方が、自分の得意分野を活かした展示や催しをされていました。

8月9日(日)には市内で環境問題に取組んでいる8団体（すいた市民環境会議、吹田野鳥の会、すいた環境学習協会、アジェンダ２１、吹田地学会、紫金山みどりの会、吹田ヒメボタルの会、吹田自然観察会）が参加してシンポジウム「吹田の自然と人のかかわり」がありました。各団体が活動紹介した後、阪口市長、小山館長も壇上に登場して語り合いました。（写真　上）

すいた市民環境会議が企画・運営を担当したものには、①展示会室入り口に展示した「大木の願いを」②シンポジウム「森の木と街の木」、③大木観察会「関西大学の大木に会いに行こう」④身近な自然素材を使って、壁飾りやリースなどを作る「森のクラフト」や太陽光発電普及啓発のために、太陽光発電で動く噴水で遊び、ソーラークッキングを見学、試食する「おひさま広場」があります。①と②については 10 頁、11 頁で詳しく紹介しています。

9 月 25 日には「吹田市の自然物語」展の反省会がおこなわれました。20 人以上の市民委員が集まり企画した担当者の報告のあと活発な討議がおこなわれました。（写真　左）

吹田市立博物館特別展『吹田市の自然物語』

展示「大木に願いを」報告

理事　喜田久美子

コンクリートとアスファルトで固められた吹田にも、
古木大木が生きている。
森も残っている。
木の力、森の恵みを感じるこころを
私たちは失ってしまったのか。
吹田の木は育っている。
吹田の木が伐られる。
あなたの願いを教えてください。
あなたは、何を守り、
何を育てていくのでしょう。

すいた市民環境会議は、吹田市立博物館の特別展「吹田市の自然物語」に「大木に願いを」というテーマで展示しました。これは、大木調査の報告と合わせて、大木の大切さを感じてもらおうという試みで、下記３つのパートに分けました。

１．パネル展示

大木調査のマップを拡大したパネルのほか、調査から見えた課題を写真と短い言葉で表現したパネルを展示しました。大木に寄せる私たちの思いが伝わったでしょうか。

◀パネル展示

２．イラスト展示

この「吹田の郷」の表紙を飾っている安芸早穂子さんの大木をテーマにしたイラストに、安芸さんの作品「森の主（あるじ）」を合わせて展示しました。

「森の主」には、太古の森の主たる大木と人間たちが描かれています。人は小さく儚く、森の主は人智を超えた存在として堂々とそこに立っています。

しかし、その木を畏れ敬いつつも、人は木を伐り、生きてきました。人と木のつながり、自然に生かされていることの大いなる意志のようなものを感じます。

イラスト展示▶

３．大木オブジェ展示

大木調査によって、吹田市内の最大幹周りの木は、467cm（直径約 149cm）のクスノキであることが確認されました。その大きさを実感してもらうために大木オブジェを制作しました。また、大木への畏敬の念の表現として、来館者に「願いの葉」に願いごとを書いて貼ってもらい、会期中に葉を茂らせていきました。自然への思い、家族への思い、将来の夢などなど、最終日には 473 枚になっていました。

大木オブジェの制作にあたっては、安芸さん、鎌苅宏司さん（大阪学院大学経済学部　教授）はじめ、玉置輝さん（吹田イラストレーター育成塾　塾長）、小川忠夫さん（エコおもちゃ作り市民塾　塾長）鶴田晴彦さん（紙細工作家）ほか大阪学院大学の皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

▲組み立て前。ダンボールでできています。

▲力を込めて組み立てます。

▲願いごとを書いた葉っぱを大事に貼り付けます。

▲会期中に「願いの葉」がこんなに茂りました。473 枚ありました。願いごとが叶うといいなぁ。

吹田市立博物館特別展『吹田市の自然物語』

シンポジウム「森の木と街の木」報告

理事　小田信子

すいた市民環境会議が「吹田の古木大木」の冊子を発行したことを記念して、吹田市立博物館、知床の森トラスト関西支部、すいた市民環境会議との共催で、吹田市立博物館春季特別展の第３期「吹田市の自然物語」にあわせて７月２６日、シンポジウムを開きました。博物館の講座室には８０人を超える人々が集まりました。

はじめに吹田の大木調査責任者ですいた市民環境会議理事の平(ひら)軍二と（財）知床財団理事長の関根郁雄さんが話題提供をしました。

平さんは吹田の大木調査の結果を報告し、大木は人びとに安らぎ感をもたらし、木を植えることの効果・必要性を感じてもらえるのだが、吹田市内では次々と大木が伐られている実態にも言及しました。

シンポジウム出席の皆様 左から喜田･武田･出原･関根･小田の各氏と小山館長

一方、関根さんは大正時代から知床の原生林を伐採して農地を作ったものの厳しい自然環境に離農せざるを得なくなった跡地を 1977 年から日本におけるナショナル･トラストのさきがけとしての「知床 100 ㎡運動」を展開し全国から４万人を超える賛同者からの寄付金で離農跡地を買い取り、その後のエゾシカの食害と戦いながら植樹して原生の森に復活させる涙ぐましい取り組みを報告しました。

これらの話題提供をもとにすいた市民環境会議の喜田久美子のコーディネートで、第 2 部のパネルディスカッションが行われました。

まず、神戸大学の武田教授は住民が緑ある町で木のうるおいを享受している意識を育てていく必要を語りました。

垂水神社の出原真哉禰宜（ねぎ）は、鎮守の森は自然保護の対象ではなく氏子が守っている信仰する山であると述べ、一度伐った木は戻らないので時代に左右されず“なにもしない”で維持していくことの困難さと勇気が必要なことを語りました。

関根さんは知床再生の森では“外から持ち込まない、外へ出さない”とのルールを定めて運動を行っており、多様な樹種の安定した森に育てるため生態学などの専門家の検証作業も行っていると述べました。

すいた市民環境会議会長の小田忠文は、大木調査の結果を市民が市内の木に親しみ、環境に親しむために吹田の町を歩くきっかけとして役立てたいと語り、さらに行政と市民・事業者との協働による生物多様性をはぐくむガイドライン作成の必要性を語りました。

小山館長はオーストラリアでは木へのこだわりがなく、林に火を放つ方法がとられていることお話になりましたが、武田教授はオーストラリアでは熱を受けることで発芽する種類の植物もあり、日本とは事情が異なることを説明しました。そして吹田のみどりのあり方について、知床の原生林は手をつけないのがいいのだが、すでに何度も手の入った街の中のみどりを維持するには常時手を入れ続けなければならない、生物多様性基本法が施行されたので、吹田市としても生物多様性の戦略をつくり、それに沿って 50 年から 100 年先を見すえた計画を立ててみどりを管理していく必要があるだろうし、同時に住民の意識を高めていく必要もあると語りました。

木が平気で伐られている吹田、厳しい環境の中で木を植え続けている知床、そして一切木を伐らないで神社周辺の鎮守の森を代々引き継いでいる垂水神社の三者の現状から吹田での大木の扱いを考えさせられた２時間のシンポジウムでした。

子どもゆめ基金助成事業 トンネルアート パート４

岸部の地下道にトンネルアートが完成

まちなみ委員　松岡要三（現代美術を愉しもう塾副塾長）

昨年まで３年かけて吹田市立博物館前名神高速道路下のトンネルアートに取組んだ現代美術を愉しもう塾が今年の夏は岸部の JR をくぐる地下道（岸部第一小学校前　写真上）に取組み、子どもたちと若いアーティストが中心となって、長さ約６０ｍの大壁画を描きました。制作に当たっては、地元の岸部地域まちづくり協議会、スマイルぷくぷく、岸部第一小学校などの関係者の支援･参加があり、地域交流、世代間交流をはかりながら、天候不順に悩まされながらも楽しく制作に打ち込みました。（写真下左、下中）

８月２３日(日)には､吹田市の木下秘書長や地元関係者などの臨席のもと完成式、完成記念テープカット（写真下右）など式典と完成記念懇話会がありました。

街角アート探索会（現代美術を愉しもう塾と共催）

江坂界わいの彫刻探訪と彫刻美術館･スキュルチュール江坂見学

まちなみ委員　松岡要三

日　時：09 年 11 月５日(木)9:30～12:00（雨天決行）
集　合：地下鉄江坂駅北改札前
参加費：700 円（美術館入館料含む）
　　希望者はアメニティ江坂内　ル・ジャルダンで昼食会（食事代 1600 円）
内　容：江坂駅～ダスキン本社ビル（岡本太郎の陶壁画･みつめあう愛）～エスコタウン～内環状線・レックス江坂店（店舗屋上の巨大な恐竜）～ミスタードナツカレッジ（新宮晋の風見鶏と門脇おさむの石の風車）～スキュルチュール江坂（ロダンの作品など近･現代の彫刻の逸品）～アメニテイ江坂の野外彫刻（マルタ･パン、内田晴之、原祐次などの作品）
申込先：松岡要三（TEL または FAX　０６－６３８３－８１６８　先着 15 名　10 月 28 日まで）

冊子完成記念<u>大木観察散策会</u>

第4回　青山台から藤白台

生きもの委員会　平（ひら）軍二

日　時：09 年 11 月 29 日(日)9:00～12:00
集　合：阪急北千里駅改札口
持ち物：大木冊子・大木マップ（あれば）
参加費：300 円／人
内　容：北千里駅～くちなし公園～フェニックス公園～千里さくら通り～青山公園～千里北公園～三色彩道～北千里駅と、千里ニュータウン北部の青山台・藤白台地区を歩きます。
　　途中、三色彩道では名前の通りの紅葉を楽しみます。
参加申込み：不要
問合わせ先：平（ひら）軍二　電話：090-6901-1425(携帯)　メール:g - hira@nifty.com